

Ⅲ-2-6 島の歴史

西表島はマラリアや明和の大津波後の土地の疲弊のため定住することが厳しく、古くからの集落は数える程に少ない。琉球王朝時代には何度か強制移住が行なわれたが、定着することは困難であった。それでも古見や祖納などでは、自然と共生しながら生活を育み、祭りや芸能、信仰などの独自の文化を継承してきた。

一方、明治期に開始した炭坑開発は、新坑の開発と衰退を繰り返しながら大正から昭和の時代を移り変わり、一時はかなり発展したが、第二次世界大戦中に次第に衰退していった。

第二次世界大戦末期に、波照間島の住民が強制的に西表島への疎開を命じられ、この地で多くの住民がマラリアに罹患し波照間島に帰島することなく亡くなった方もいた。

このように過酷な経緯をたどった西表島の歴史を、島で暮らしてきた先輩方から教えてもらうことで、島の歴史を理解し、島を愛する気持ちを育てる機会とする。

①西表の村の歴史

西表島には先史時代の貝塚、琉球王国時代に書かれた古文書が残され、500年以上にわたって人と自然が共存し、各集落には御嶽があり、古代から自然や祖先をうやまう心を持って生活が営まれてきた歴史がある。家の造りや屋敷囲い、集落の構造などにも、自然環境を十分に考慮して設計されている。一方、食生活や民間医療の技をみても、古くから島民が自然の恵みをうまく利用してきたことがわかる。古くからある集落、新しくできた集落、人が住まなくなった集落など島の各集落の歴史や伝統文化などを学びこれから進むべき西表島の将来について考える。

②西表の炭鉱の歴史

西表島には古くから燃える石に関する言い伝えがあり、18世紀の文書には地域の産物として「燃石」の記述がある。

宇多良炭坑は、1933（昭和8）年に開坑し、最盛期には抗夫千数百人が就労していた。周囲を密林に囲まれた炭坑村が存在していた。現在、石炭を運ぶトロッキのレール敷設のためのレンガ積み橋脚の残骸の一部などが残っている。2007年には経済産業省の近代化産業遺産群に認定された。宇多良炭坑跡歩道を歩きながら、炭坑での強制労働や自然との対峙など島の過酷な歴史を学ぶ。なお、西表島の炭坑の歴史は、昭和35年を持って終了した。

Ⅲ-2-6-1 西表の村の歴史〔対象：小学生高学年〕

プログラム	西表島の集落ってどんなところ？
ねらい	古くからある集落、新しくできた集落、人が住まなくなった集落など島の各集落の歴史や伝統文化などを学ぶ。

〔学習の背景〕

- 西表島には 500 年以上にわたって自然と共存して来た歴史がある。
- 各集落には御嶽があり、自然や祖先をうやまう心が育まれてきた。
- 家の造りや屋敷囲い、集落の構造などに、自然環境を考慮した建築様式となっている。
- 食生活や民間医療の技をみると、古くから島民が自然の恵みをうまく利用してきたことがわかる。
- 先史時代の貝塚、琉球王国時代に書かれた古文書が残されている。

活動	具体的な学習内容
地名の不思議	数々の地名を紹介し、山にも海にも名前をつけてきた祖先たちの世界観を学ぶ。
独特な祭り	種子取祭や豊年祭など農業に由来する祭り、正月とは異なる年越し儀礼である節祭、古見のアカマタ・クロマタなど独特の祭祀から、古い村々の成り立ちを学ぶ。
製糖、炭坑と入植	さとうきびから黒糖をつくる製糖工場や炭坑跡の分布、強制移住の記録などから、新しくできた村々の歴史を学ぶ。
唄と言い伝え	祭りのときの願い歌から発展した西表の民謡などの歌詞、島に残る伝説やことわざなどから、昔の人の生きる知恵、自然に対する思いなどを学ぶ。
古道の歴史	琉球王国の宿道、舟の道、探検家・笹森儀助が横断した南嶋探検の道などを地図上で確認しながら、その道がどう使われてきたかなどを学ぶ。



節祭



前泊御嶽のイビ



屋敷の佇まい



製糖工場

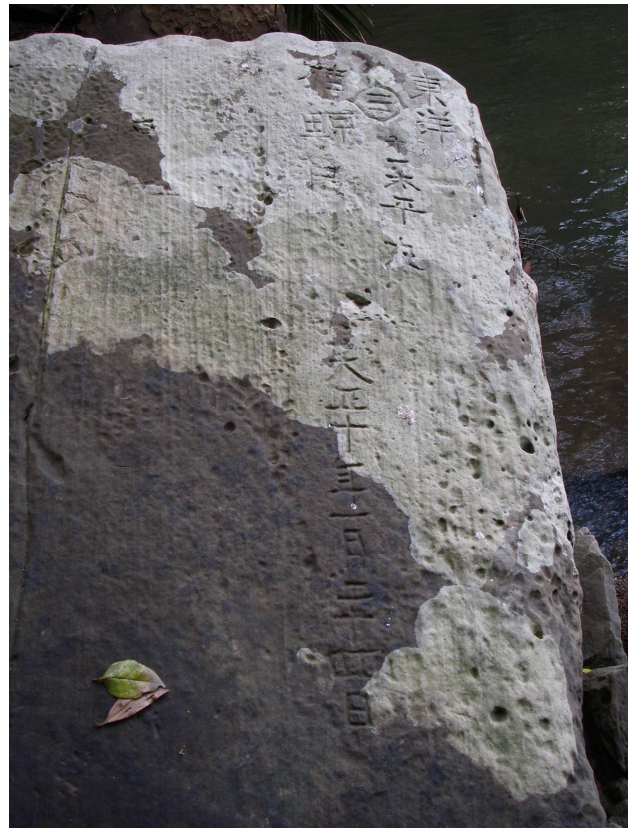
授業形態	パワーポインター等を用いた座学
実施場所	各学校
実施時期	特に制限なし
所要時間	1 時間（1 コマ）× 数回
対象学年・教科・単元	・ 小学校 社会科 第 3 学年及び第 4 学年 1. 目標-(2) 2. 内容-(5) ・ 小学校 道徳 第 3 学年及び第 4 学年 2. 内容-4 -(5) ・ 小学校 道徳 第 5 学年及び第 6 学年 2. 内容-4 -(7) ・ 中学校 社会科 歴史分野 1. 目標-(4) 2. 内容-(1)歴史のとらえ方-イ
支援機関	西表島エコツーリズム協会（石垣金星氏等）、経済産業省



鹿川集落跡



宇多良炭坑跡のビール瓶



大正 10 年頃の落書き

Ⅲ-2-6-2 西表の炭坑の歴史〔対象：中学校〕

プログラム	西表島にも炭坑があった！ その歴史を学ぶ
ねらい	西表の宇多良炭坑跡地から、戦争に係わる強制労働や自然との対峙など島の過酷な歴史を学ぶ

〔学習の背景〕

- 西表島には古くから燃える石に関する言い伝えがあり、18 世紀の文書には地域の産物として「燃石」の記述がある。
- 西表炭坑の一つである宇多良炭坑は、1933（昭和 8）年に開坑し、最盛期には抗夫千数百人が就労していた。
- 2007 年に経済産業省の近代化産業遺産群に認定された。
- 石炭を運ぶトロッコのレール敷設のためのレンガ積み橋脚の一部などが残る。
（ガジュマルが絡んでいる）

活動	具体的な学習内容
炭坑跡に続く歩道	歩道沿いの植生や生き物を観察する。
炭坑遺構の観察	当時の写真とともに採炭トロッコ用の支柱など遺物の説明を受け、炭坑労働の様子を想像する。
炭坑の歴史	琉球王国時代から明治期の炭坑開発、大正期の全盛時代、戦時体制での採掘など西表の炭坑史を振り返る。※事前学習



宇多良炭坑橋脚跡



宇多良炭坑を説明する解説板



萬骨碑



修学旅行生

授業形態	専門講師による野外授業
実施場所	宇多良炭坑跡歩道（木道 65m 歩道 918m 案内板 6 箇所）
観察方法	木道～歩道を歩きながら、炭坑の悲惨な歴史や自然と対峙して来た島の暮らしを説明
使用する機器	木道マップ（植生マップ）
実施時期	特に制限なし
所要時間	2 時間 ※移動含まず
対象学年・教科・単元	・ 中学校 社会科 歴史分野 1.目標-(4) 2.内容-(1)歴史のとらえ方-イ ・ 中学校 社会科 歴史分野 1.目標-(4) 2.内容-(4)近世の日本-エ
支援機関	西表島エコツーリズム協会、林野庁沖縄森林管理署、西表森林生態系保全センター



石炭

12

